

人生は楽しい！-その秘訣、教えます！-



若者

長久保 白*

What a wonderful life!

Key Words : Life, Enjoy, Study hard

突然ですが、あなたは今これをどのような気分で読んでいるでしょうか？楽しみのひと時、面白いものを見つけた！業務の一環。眠い、疲れた、忙しい、その他いろいろ・・・。

最近私は毎日が楽しくて仕方ありません。そしてこれは最近に限った話ではありません。もちろん毎日仕事に追われ時間は足らず多忙を極め、やりたいこともやらないといけなくもたくさんあるのに実際にできることはそのうち一部。プレッシャーもあれば理不尽なことを押し付けられることもある。

ですが、やっぱり毎日楽しい！それは自分が夢中になれることをいつも自分で見つけてきたからだと思います。私はこれを読む私より「若者」の皆様がより楽しい人生を送って頂けることを願いながら、人生を楽しむとはどういうことかをご紹介しますと思います。

最初は勉強なんて好きじゃなかったはずなのに

小学生の頃、私は勉強なんて宿題をやる程度であとはテレビゲームやカードゲームをしたり公園で遊んだりしてばかりでした。当時から塾やそろばんに行き習い事に追われる友達もいましたが、私は「いつもいそがしそうであそべないのざんねんだなあー」ぐらいにしか思っていないませんでした(笑)この頃は何も考えずただただ毎日楽しんでいたと思います。

中学1年生になっても塾なんて行かず、部活と遊



図1 ある時期から一眼レフにハマりました。

びに明け暮れていました。しかし中1の秋以降から英語や社会の成績の悪さが気になるようになり、友達や先生から聞いた勉強法をまねして自分なりに勉強するようになりました。別に勉強が好きだったわけではなかったのですが、自分だけできないことに焦りを感じたのがきっかけでした。

吹奏楽部の盛んな高校に行きたかったのに

私は中学生の頃、吹奏楽部に所属していました。幸いにも活動は活発な方で、府内の高校にも吹奏楽で有名な高校がいくつもありました。進路選択に迫った中3の私はこれまた幸いなことにある程度成績も良い方でした。勉強と吹奏楽、高校生活でどちらに専念するか迷った私はいわゆる進学校ではなく、吹奏楽部の盛んな高校へ進学したいと決意しました。しかしこのことを親に相談すると即答で大反対(笑)理由は明確で、「勉強をしろ」という話でした。もちろん当時の私は強く反発しましたが、最終的には私が折れて「そんなに勉強が大事っていうならやってやる。勉強にどれだけの価値があるのか確かめてやる！」と逆に決意を固めました。

高校以降は勉強が楽しい！？

高校に進学後はもう部活にも入らず、入学時点か



* Akira NAGAKUBO

1988年9月生まれ
大阪大学 大学院基礎工学研究科 機能創成専攻 博士後期課程修了(2014年)
現在、大阪大学大学院工学研究科 附属超精密科学研究センター 助教
博士(工学) 光計測、弾性率計測、フォノン、マグノン
TEL : 06-6879-7278
FAX : 06-6879-7278
E-mail : nagakubo@prec.eng.osaka-u.ac.jp



図2 幼いころからピアノを習っていました。

ら必死で勉強していました。授業の予習復習、参考書にも手を付けて、英語以外は塾にも通わず、自力でいろいろな勉強をひたすら試していました。

思えばこの頃から行っていた「自分で目標を決めて達成する」ということが現在に至るまでの私の人生を豊かにし続けてきた原動力になりました。おそらく勉強するのが楽しいっていう人はあまり多くないと思いますし、私も高校生の頃は勉強の内容自体をそんなに楽しんでいたとは思えません。しかしいろいろな勉強法を試しながら「どうやったら問題を解けるようになるのか?」「どうやったら暗記できるようになるのか?」ということに苦勞しながら身に着けた経験がその後の人生にも大いに役立っています。当時もそうやって自分の編み出した勉強法で成績が上がるのは嬉しかったので、無我夢中で取り組んでいました。

新たな吹奏楽人生

高校にも吹奏楽部はあり、活動もそれなりに盛んでしたが、私は結局入部しませんでした。勉強をとことんやりつくすという信念があったほか、中学時代の親友が私のあこがれた吹奏楽強豪校へ進学して

活躍していたというのが大きかったです。「彼とは違う何か別のことをしたい!」と考えて思いついたのが母校のボランティア活動でした。中学生の時から部活でいろいろな仕事をするのは楽しんでいました。その親友と二人であれこれ考えて自分たちで何かを成し遂げるとするのが楽しかったです。そして卒業後もOBとしてその活動に携わるのはきっと面白いんじゃないか!?!と思いついてやり始めたのがその母校のボランティア活動でした。

この活動は私の想像以上にかげえのない楽しみとなり、多くのものを得ました。高校・大学の部活やサークルで幹部となって組織を運営するのと似たようなものかもしれませんが、大きく違うのは「自分自身が活動するわけではない」という点と「後輩を育てる」ということに主眼を置いていた点だと思います。もちろんこのような活動を楽しんでいる人もいればそうでない人もいるでしょうが、重要なのは「自分で見つけた新たな道に全力を費やす」ということだと思います。人に言われたり、周りに流されたりしながらやるだけでなく、自分でやり始めた「何か」こそ何よりも楽しめることだと思います。

勉強を「面白い」と思うためには?

大学での勉強は楽しかったです。高校時代よりも中身がさらに具体的になり、「なぜ?」という問いに対してより明確に答えが返ってくるようになり、自分自身でもより中身の深い問題について考えたりできるようになったからです。数学や力学や電磁気学などの専門科目だけでなく、哲学や科学史やドイツ語といった教養科目も私にとっては非常に面白かったです。

しかし、多くの大学生たちは勉強が面白いとは思っていないかもしれません。そんな学生に私からア



図3 バイクも好きです。



図4 最近はお菓子作りにもハマっています。



図5 様々な風景を撮るのも好きです。

ドバイスできることは「とにかく一度全力で取り組んでみる」ことです。ゲームもスポーツも芸術も、始めたばかりで慣れないうちは楽しさを感じるのが難しい事も多いと思います。勉強も同じだと思います。

例えば私も大学でドイツ語を初めて習った時はそのややこしさに困惑しました。「女性名詞男性名詞中性名詞とそれに伴う冠詞の活用形とか一体なんやねん・・・!？」そう思いながらも、私はドイツ音楽に興味があったのではじめのうちは必死で慣れる努力をしました。4月に習い始めたドイツ語も12月になればある程度理解できるようになり、そんなころにBeethovenの交響曲第9番を聴いた時!歌詞の意味がかなり分かるようになり、涙を流しながら聴いていたことをよく覚えています。

何が面白いかは人それぞれです。そして人生の選択も人それぞれです。大学に入る道を選んだならきっとその中に面白いと感じられることがあるはずなので、それを自分自身で見つけることが大切だと思います。

人生を楽しむ秘訣は、楽しいと思えることを自分自身で編み出すこと

私の思う人生を楽しむ秘訣は、自分の選んだ環境の中で自分自身が楽しいと思えることを自分自身の力で編み出すことだと思います。

私はその後4回生になって研究室に配属され、研究室生活が始まり、学位を取得し、研究者として留学や異動をし、今は助教として大阪大学で働いています。その途中でも研究がうまくいかない事や、実験が大変な時、進路について苦悩する事、いろんな仕事を押し付けられる事など、いろいろな“楽しくない時”がもちろんありました。もちろん今もあり



図6 花火大会は美しい写真が撮れるのでお勧めです。

ます。

そんな時、まず考えるのはその実験や研究・仕事・勉強の必要性です。冷静に考えればそれがいかに大切かということはすぐにわかりました。逃げてでも無駄でした。結局逃げ切ることはできず、また同じ問題により困難な状況で立ち向かう羽目になるだけでした。

逆にそのような状況でこそ何か楽しむ方法・面白いことを探してみませんか?自分の力で面白いことを見つけられないなら、かつての私がそうだったように、信頼できる人の言葉を信じて自分で目標を立ててとにかくやり遂げてみることです。出来なかったことが出来るようになればきっと楽しく感じられると思います。自分にとって重要なことであれば、できたときの達成感もとても大きいものです。

何か自分で出来るようになると、今の私がそうであるように、どんどん新しいことが出来るようになってどんどん楽しめる方法が増えていきます。自分が選んだ道の中で逃げずにやりたいことを見つけ、自分の出来ることを増やし、それを使って楽しむ方法を編み出す。これが私の思う人生を楽しむ秘訣です。

皆様への謝辞

最後まで読んで下さった読者の皆様、どうもありがとうございました。私見に満ち溢れた散文を読むのはあまり“楽しくなかった”かもしれません。しかしその費やした時間と労力によって得た経験がどこかで何かのお役に立てることを祈っています。またこのような貴重な紙面を与えて下さった大阪大学大学院工学研究科の桑原裕司教授、生産技術振興協会編集委員会委員長の梶島岳夫様に厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。